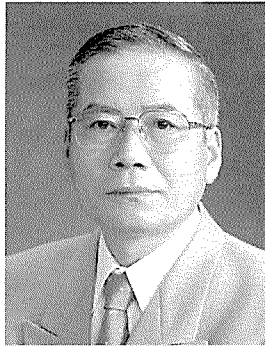


業績目録（村上雅孝）

著者	東北大学史料館
号	861
発行年	2004-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/00065678

村上雅孝教授業績目録

平成16年3月
東北大学史料館
(著作目録第861号)



村上雅孝教授略歴

生年月日 昭和15年11月23日生
本 籍 地 宮城県
所 属 文学研究科

学 歴

昭和34年 3 月	宮城県立石巻高等学校卒業
昭和34年 4 月	東北大学文学部入学
昭和38年 3 月	東北大学文学部国語学科卒業
昭和38年 4 月	東北大学大学院文学研究科修士課程（国文学国語学日本思想史学専攻）入学
昭和40年 3 月	同課程修了
昭和41年 4 月	東北大学大学院文学研究科博士課程（国文学国語学日本思想史学専攻）入学
昭和45年 3 月	同 課程単位取得退学
平成 5 年 5 月	博士（文学）学位取得

職 歴

昭和45年 4 月	東北大学文学部助手（付属日本文化研究施設）
昭和46年 4 月	共立女子大学文芸学部専任講師
昭和50年 4 月	同 助教授
昭和55年 4 月	岩手大学人文社会科学部助教授
昭和63年 4 月	東北大学文学部助教授
平成 3 年 3 月	中国北京日本学センター客員教授（～6 月）
平成 3 年 4 月	東北大学文学部教授
平成10年 4 月	東北大学大学院文学研究科教授

海外出張

平成 3 年 3 月	中国北京出張 日本学センターで講義及び講演
------------	-----------------------

平成12年11月	韓国出張	国立忠南大学における大韓日語日文学会で講演
平成12年12月	台湾出張	国立台湾大学における追求卓越の日本研究国際会議で講演
平成13年6月	韓国出張	国立釜慶大学における東北アジア文化国際会議で講演

非常勤講師

岩手大学人文社会科学部，秋田大学，岩手大学教育学部，宮城学院女子大学，富山大学，
聖和女子短期大学，九州大学

業 績 目 録

I. 著書と編著書

1. 『近世初期漢字文化の世界』
明治書院 平成10年3月
2. 『漢字の泉』（佐藤喜代治他と共著）
河北新報社 平成3年7月
3. 『続漢字の泉』（佐藤喜代治他と共著）
河北新報社 平成4年7月
4. 『続々漢字の泉』（佐藤喜代治他と共著）
河北新報社 平成5年7月
朝倉書店 平成7年10月
5. 『漢字百科大事典』（佐藤喜代治他と共編）
明治書院 平成8年1月
6. 『国語論究』第5集～（佐藤喜代治編 編集委員）
明治書院 平成6年～

II. 論文など

1. 「平安時代の漢籍訓読語の一性格―再読字を中心として―」
（『国語学』第64集 昭和41年3月）
2. 「『イヨタツ』と『ヨダツ』について」
（『国語学研究』第7集 昭和42年8月）
3. 「鎌倉時代の動詞についての一考察」
（『文芸研究』第59集 昭和43年6月）
4. 「中世における動詞の実態」
（『国語学研究』第9集 昭和44年10月）
5. 「延懐と明覚をめぐる―日本悉曇学史における一問題―」
（『国語学研究』第9集 昭和45年12月）
6. 「東北大学図書館蔵蘇悉地羯羅經占点」
（『共立女子大学文学部紀要』第20集 昭和48年2月）
7. 「徒然草の音韻」
（『徒然草講座』4 有精堂 昭和49年11月）

8. 「近代における漢文訓読の流れ」
（『言語生活』291号 昭和50年12月）
9. 「新注家点の展開」
（『共立女子大学文芸学部紀要』第20集 昭和51年2月）
10. 「論語元亀四年点と文之点」
（『佐藤喜代治教授退官記念 国語学論集』桜楓社 昭和51年6月）
11. 「山崎嘉点の性格」
（『文芸研究』第82集 昭和51年6月）
12. 『寛文四年版道春点論語語彙索引稿』
（『共立女子大学文芸学部紀要』第23集 昭和52年2月）
13. 「近世における新注家点の形成—惕斎点を例として—」
（『国語学研究』第16集 昭和52年8月）
14. 「林鶯峰の『詩経正文』と『詩訓異同』について」
（『共立女子大学文芸学部紀要』第24集 昭和53年2月）
15. 「道春点の形成—惺窩点のかかわりを中心にして—」
（『共立女子大学文芸学部紀要』第25集 昭和54年2月）
16. 「荻生徂徠の訓読観」
（『共立女子大学文芸学部紀要』第26集 昭和55年2月）
17. 「近世における漢文訓読の一問題—荻生徂徠の訓読の世界—」
（『国語学』123集 昭和55年12月）
18. 「林羅山『大学諺解』をめぐる諸問題」
（『歴史と文化』岩手大学人文社会科学部アジア研究編 昭和56年2月）
19. 「松永昌易の『首書五経集注』における訓点について」
（『アルテス・リベラレス』第28集 昭和56年7月）
20. 「近世易学受容史における鶯峰点『易経本義』の意義」
（『文芸研究』第100集 昭和57年5月）
21. 「講義注釈書の語彙—原注釈書としての『周易訓点異同』における原注と訓読語について—」
（『講座 日本語の語彙』5 明治書院 昭和57年6月）
22. 「語誌『あるいは』『うさん（胡散）』」
（『講座 日本語の語彙』9 明治書院 昭和58年6月）

23. 「語誌『どうよく（胴欲）』『のんき（呑気）』『やがて』」
（『講座 日本語の語彙』11 明治書院 昭和58年6月）
24. 「近世古方言書索引」第1集
私家版 昭和58年12月
25. 「林羅山訓点『毛詩注疏』の和訓の性格とその意義」
（『国語語彙史の研究』第5集 和泉書院 昭和59年5月）
26. 「国会図書館蔵正安四年本『釈氏往来』について」
（『アルテス・リベラレス』第34集 昭和59年6月）
27. 「庄内浜萩索引」
私家版 昭和60年1月
28. 「藤原惺窩と古点」
（『文芸研究』第109集 昭和60年5月）
29. 「林鴛峰の『公羊伝・穀梁伝』刊行をめぐる」
（『汲古』第7集 昭和60年7月）
30. 「林羅山と手沢本正平版論語をめぐる」
（『思想と文化』岩手大学人文社会科学部 欧米研究編 昭和61年2月）
31. 「道春点の形成過程とその成立について」
（『国語論究』1 明治書院 昭和61年5月）
32. 「近世初期における漢文訓読語の一性格―雅の世界と俗の世界と―」
（『国語語彙史の研究』第7集 和泉書院 昭和61年12月）
33. 「藤原惺窩点の資料について」
（『訓点語と訓点資料』第77集 昭和62年3月）
34. 「随筆と漢字―荻生徂徠の『南留別志』をめぐる二、三の考察―」
（『漢字講座』7 明治書院 昭和62年12月）
35. 「漢字和訓索引」
私家版 昭和63年2月
36. 「文之玄昌と『周易伝義大全』」
（『日本文化研究所研究報告』第25集 平成元年3月）
37. 「人名の漢字」
（『漢字講座』11 明治書院 平成元年6月）
38. 「明治以降の漢字研究の歩み」
（『漢字講座』2 明治書院 平成元年8月）

39. 「国語学史から見た『桂庵和尚家法倭点』の意義」
(『東北大学文学部研究年報』第39集 平成2年3月)
40. 「寛永版周易古注点の性格とその背景」
(『日本文芸思潮論』片野達郎編 桜楓社 平成3年3月)
41. 「近世初期における伝文の体の訓読と『ゾ』」
(『国語論究』3 明治書院 平成3年10月)
42. 「朝鮮半島経由の中国俗語の研究」
(『武蔵野文学』39 平成4年1月)
43. 「元刊本『周易句解』をめぐる」
(『汲古』第22号 平成4年11月)
44. 「近世初期における朝鮮漢字文化の展開」
(『日本文化研究所研究報告』別巻第30集 平成5年3月)
45. 「東京国立博物館蔵 白氏文集林羅山点」
(『東北大学文学部研究年報』第43号 平成6年3月)
46. 「文之玄昌と宋学—周易伝義大全の書き入れを通して見た—」
(『文化』第57巻3・4号 平成6年3月)
47. 「唐話学の夜明け前—唐話辞書『語録解義』のテキストとその性格—」
(『国語論究』5 明治書院 平成6年12月)
48. 「唐話資料『語録解義』の二字漢語」
(『文芸研究』第139集 平成7年5月)
49. 「近世語としての徂徠用語」
(『文化』第60巻1・2号 平成8年9月)
50. 「『俗語解』と『雅俗漢語訳解』—近世唐話学の行方—」
(『文芸研究』第143集 平成9年1月)
51. 「近代語史における『訳文筌蹄』の意義」
(『国語論究』6 明治書院 平成9年7月)
52. 「俗語解小考」
(加藤正信編『ことばの歴史地理構造』明治書院 平成9年7月)
53. 「藤原惺窩の文章と上代語」
(佐藤武義編『万葉集の世界とその展開』白帝社 平成10年4月)
54. 「藤原惺窩と中古語」
(『国語論究』7 明治書院 平成10年12月)

55. 「国語学から見た『訓訳示蒙』と『訳文筌蹄』」
(佐藤武義編『語彙・語法の新研究』明治書院 平成11年10月)
56. 「『匹如』の解釈とその歴史」
(遠藤好英編『語から文章へ』平成12年8月)
57. 「『応氏六帖』と『漢字和訓』」
(『国語論究』8 明治書院 平成12年11月)
58. 「日本における漢文の受容と展開」
(『追求卓越の日本研究国際会議論文集』国立台湾大学 平成12年12月)
59. 「朝鮮半島を経由した日本の漢字文化」
(『日語日文学』第15集 大韓日語日文学会 平成13年5月)
60. 「日本における中国俗語の受容とその展開」
(『東北亜文化研究』第一集 東北アジア文化学会 平成13年10月)
61. 「現代語彙研究の歴史」
(『講座現代日本語』第4巻 語彙 明治書院 平成14年6月)
62. 「近代語史・近代語学史における荻生徂徠の位置」
(『国語と国文学』平成14年11月)

Ⅲ. その他

1. 佐藤喜代治編『国語学研究事典』
項目執筆 明治書院 昭和52年6月
2. 中田祝夫編『古語大辞典』
項目執筆 小学館 昭和58年12月
3. 「言語における日本人の公私観念—文献による語彙調査と水沢市における場面別調査から—」
(『日本文化研究所研究報告』別巻第26集 加藤正信等と共同執筆 平成元年3月)
4. 「南部・伊達藩境地帯における方言分布調査の報告と考察」
(『日本文化研究所研究報告』別巻第28集 加藤正信等と共同執筆 平成3年3月)
5. 赤祖父哲治他編『日・中・英言語文化事典』
項目執筆 マクミランランゲージハウス 平成12年5月
6. 築島裕他編『訓点語辞典』
項目その他執筆 東京堂 平成13年9月

Ⅳ. 書 評

1. 佐藤喜代治『字義字訓事典』
(『文芸研究』第113集 昭和61年9月)
2. 佐藤 亨『咄本より見たる近世初期言語の研究』
(『新潟大学国語国文学会誌』第32集 平成元年3月)